

思い出を形作る税金

岡山県立岡山操山中学校3年 茶圓 由衣

誰しも幼少期の楽しかった記憶があると思う。遊び、お出かけ、家族との会話……。思い返すと、私の幼少期の楽しみはそのほとんどが税金に支えられていた。

私は小さな頃から本を読むことが好きだった。図書館に行つては、本を二十冊ほど借りることを毎週繰り返していたが、今思えば中々すごいことだ。もしこれらの本を全て本屋で買う場合を考えてみる。一冊八百円として、二十冊買うことを一年間続けたとすると、約八十三万二千円かかる。それを図書館では無料で読むことができるのだ。それだけでなく、図書館は定期的にイベントが開かれたり、紙芝居をしてくれたりと、子供達が楽しみながら学べる工夫が施されている。私は読書を好きになって、国語が得意になったのは税金の使い道の一つに図書館があったからだと思う。

また、県中の様々な公園を探して、そこへ家族と出かけることも好きだった。大きな遊具や噴水、芝生でおおわれた広場……。全ての場所に笑顔が溢れている公園が大好きだった。また、公園は体を動かすだけでなく、たくさんの人と交流できる場でもある。私も、時には初対面の子と仲良くなり、一緒に遊具で遊んだことがあった。小さな子供達が広場を駆け回っているのを見守りながら会話を楽しむ大人達。音楽を聴きながらランニングをする若者や、犬の散歩に来たお年寄りの方々。そこにはさっきまで走り回っていた子供達が犬と触れ合う姿も。全ての世代の人が一箇所に集まり、各々がやりたいことを楽しみながら時に交わるこの空間は、とても居心地が良くて暖かかった。税金で作られたものから人々の笑顔や繋がりが生まれていくことを知った。

税金によって作られたものからは必ず誰かの笑顔が生まれる。幼少期の充実した思い出を形作って貰った人も多いと思う。日々払っている税金は、人生を豊かにしてくれる物に変化して、私達の元へ返ってくるのだ。ささやかな幸せをおまけにつけて。